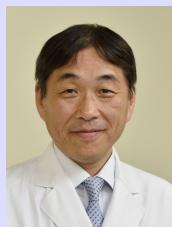




教員紹介

領域(医学部組織)
口腔外科学

専門分野キーワード



教員氏名 太田 嘉英(おおた よしひで)

取得学位 博士(歯学)

現在の身分 教授

(役職名)

専門分野 口腔外科学、口腔悪性腫瘍、唾液腺腫瘍

現在の研究課題 機能温存を中心とした口腔癌の外科的療法、客観的な指標を用いた口腔癌の原発巣切除法、口腔癌および唾液腺腫瘍の臨床の病理学的研究

所属学会 日本口腔外科学会、日本癌治療学会、日本口腔腫瘍学会、日本頭頸部癌学会

研究内容

口腔癌は形態的、機能的に極めて複雑な口腔顔面に発生するため、その治療には腫瘍の根治のみでなく、QOLに対してもきわめて慎重な配慮が必要な疾患です。私たちのグループは口腔癌切除の術式に科学的根拠を持たせることを目的とした臨床的病理学的研究を中心に行っています。特に深部マージンの設定に関しては組織隙をひとつのコンパートメントとしてとらえ、解剖学的構造物に基づく深達度分類を世界で初めて作成し、良好な成績が得られることを報告しています。大学院生に対しては基礎的研究のみでなく、臨床的にも徹底的なトレーニングを行い、今後ますます増加が予想されている口腔癌診療を担う医師、歯科医師の養成に尽力します。

グループの研究課題

近年、遺伝子解析の技術の発展がめざましく、さまざまながらん領域でオーダーメード治療やゲノム治療などの可能性を見出すための研究が盛んに行われている。われわれは、それらが口腔がんにおいても実現できるよう、DNA シーケンスや RNA シーケンスを用いた大規模な遺伝子解析、細胞やマウスを用いた分子生物学的手法による解析、患者の検体と臨床情報を用いた臨床的な研究で口腔がんの病態解明のための研究を行っている。また、口腔がんの予後改善のためには再発や転移をさらに早期に発見することが必要であり、画像の検出限界以下のものを検出する技術、また、再発や転移を予測する技術の開発が必要であると考えており、Liquid biopsy に注目し、その実用化に向けた研究も行っている。

主要論文

1. Ota Y, Aoki T, Karakida K, Otsuru M, kurabayashi H, Sasaki M, Nakamura N. Determination of deep surgical margin based on anatomical architecture is useful for local control of squamous cell carcinoma of the buccal mucosa. *Oral Oncol.* 2009 Jul;45(7):605–9. Epub 2008 Nov 20.
2. Uchibori, M., Aoyama, K. I., Ota, Y., Kajiwara, K., Tanaka, M., & Kimura, M. (2017). A mutation in NOTCH1 ligand binding region detected in patients with oral squamous cell carcinoma reduces NOTCH1 oncogenic effect. *Oncol Rep.* doi:10.3892/or.2017.5870
3. Masahiro Uchibori, Yuko Osawa, Yuki Ishi, Takayuki Aoki, Yoshihide Ota, Minoru Kimura. (2021). Analysis of HRAS mutations in Japanese patients with oral squamous cell carcinoma. *Advances in Oral and Maxillofacial Surgery* (in press)
4. Aoyama, K., Ota, Y., Kajiwara, K., Hirayama, N., & Kimura, M. (2014). Frequent mutations in NOTCH1 ligand-binding regions in Japanese oral squamous cell carcinoma. *Biochem Biophys Res Commun.* 452(4), 980–985. doi:10.1016/j.bbrc.2014.09.021
5. Aoki T, Tsukinoki K, Kurabayashi H, Sasaki M, Yasuda M, Ota Y, Watanabe Y, Kaneko A. Hepatocyte growth factor expression correlates with cyclooxygenase-2 pathway in human salivary gland tumors. *Oral Oncol.* 2006;42:51–6.